町医者だより

平成18年10月号

＜発行・お問合せ先＞
おおわだ内科呼吸器科
院長　大和田　明彦
市川市南八幡４－７－１３
ｼｬﾝﾎﾟｰﾙ本八幡２階
ＪＲ本八幡駅南口(シャポー改札口)
１分ミスタードーナツ並び
スーパーつるかめ（旧フレック）2階
電話０４７-３７９-６６６１

おおわだ
内　科
呼吸器科

インフルエンザワクチン接種のすすめ

これから冬に向かってだんだんと気温が下がってきます。インフエンザの本格的なシーズンはまだまだ先ですが、そろそろ心の準備が必要です。インフルエンザはインフルエンザウイルスによる感染症で、急に発症する38度以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などに加えて、咽頭痛、鼻汁、咳などの症状がみられます。一見普通の風邪のようですが、乳幼児、高齢者、基礎疾患をもつ人では、細菌性肺炎などを併発したりして死に至ることもあります。インフルエンザはＡ型、Ｂ型、Ｃ型がありますがヒトへの感染で問題になるのはＡ型とＢ型で、Ａ型は１月頃に、Ｂ型はそれよりやや遅れて２月頃にピークがあります。

毎年ワクチンを接種する必要がある？

ウイルス感染に対して抗体とリンパ球などが必要です。インフルエンザウイルスはウイルス表面のたんぱく質が変化しやすく毎年流行する種類(株）が異なること、ワクチン接種後の抗体の上昇が約５ヶ月といわれていることから（ワクチンの効果そのものも約５ヶ月と考えられます）、ウイルスに対する免疫を高めるのに毎年（遅くとも１１月下旬までに）ワクチン接種が必要です。

どのようにワクチンに使用するウイルス株を決めるのか？

インフルエンザワクチンはバラバラに壊した特定のインフルエンザウイルス株が入っています（感染はしません）。シーズン前の人々の抗体保有状況、昨シーズンや南半球のインフルエンザの流行状況を考慮し、WHOの推奨株（Ａ型２株、Ｂ型１株）を参考に毎年４月から６月までに厚生労働省によって決定されます。日本ではどこのメーカーが作ったワクチンであろうと使用するウイルス株は同じです。もちろん、これら選定された株が今年から来年にかけて流行する株と完全には一致しませんが、これまで調査で流行株がワクチン株と大きくかけ離れることはありませんでした。なお、この冬のワクチンにはＡ型ではニューカレドニア／20／99（H1N1）株と広島／52／2005（H3N2）株、Ｂ型にマレーシア／2506／2004株が選ばれています。

ワクチンを接種すれば完璧なのか？

インフルエンザワクチンは皮下注射で接種します。接種後2週間ぐらいから血中抗体価が上昇してきますが、感染防御にもっとも大切なＩｇＡなどの局所分泌型の抗体を誘導することができません。そのためインフルエンザワクチンの目的は「インフルエンザの重症化を防ぐ」ことです。現在改良型の吸入インフルエンザワクチン導入のための研究が進められています。完全には感染を防げませんのでワクチンを接種した後も帰宅時のうがいや規則正しい生活など、一般的な予防策は必要です。

インフルエンザにかかったらいつまで仕事や学校を休まなくてはいけないのか？

インフルエンザ発症後３～７日間は他人への感染力があると考えられています。学校健康法では「解熱した後２日間を経過するまで」を出席停止期間としています。ワクチンを接種しておけば、もしもインフルエンザを発症しても重症化せず、それだけ欠勤、欠席期間を短縮することができます。成人は１回または2回接種します。インフルエンザ接種は健康保険が適応されず全額自己負担ですが、健やかに冬を過ごすことを考えれば決して高くはないのではないでしょうか。